

2020年7月16日
三井ホーム株式会社

<コロナ禍における“共働き夫婦”の働き方と住まいに関する意識・実態調査>

- ・ 7割の人が、「夫婦共に在宅勤務」になることは想定外！
- ・ 在宅勤務経験者の約半数が家庭内で「複数人の在宅勤務」を経験
- ・ 「複数人の在宅勤務」を経験した人ほど、現在のワークスペースに不満
- ・ 「複数人の在宅勤務」を経験した人ほど、戸建ての購入意欲が高い傾向

共働き世帯は1997年に専業主婦世帯数を上回ったのち、年々増加の一途をたどり、2018年には専業主婦世帯の2倍を超える1,219万世帯となっています。（内閣府調査による）

このような背景を踏まえ、三井ホーム株式会社（本社：東京都新宿区、社長：池田 明、以下「三井ホーム」）では、国内市場において多数派となった共働き世帯で、週1回以上の在宅勤務を行った方374名を対象に、「コロナ禍における“共働き夫婦”の働き方と住まいに関する意識・実態調査」を実施しました。

本調査の結果から、7割もの人が「夫婦共に在宅勤務になることを予想していなかった」という結果となり、今回の在宅勤務は多くの方にとって想定外の状況であったことがうかがえます。

また、共働き夫婦の約半数が、家庭内において「複数人の在宅勤務」を経験しており、「複数人の在宅勤務」を経験した人ほど、家の中のワークスペースに不満をもつ傾向が高いことが明らかになりました。

さらに、今回の在宅勤務をきっかけに住宅の購入・リフォームを考えた人が4割以上（44.4%）にのぼり、「複数人の在宅勤務」を経験した人ほど住宅購入意欲が強く（53.2%）、かつ「戸建て」の購入意欲が高いことも特徴的です。

コロナ禍を経て在宅勤務の希望は高まり、それに合わせて、自宅で仕事をしやすい個室やワークスペースがあることを理想とする人は増加傾向にあるようです。同時に、在宅勤務によって、家族とのコミュニケーションが増えたと実感している人も多く、今後は仕事と家庭内コミュニケーションの両立を前提とした住み心地の良さを追求した住宅を望む声ますます高まることが想定されます。

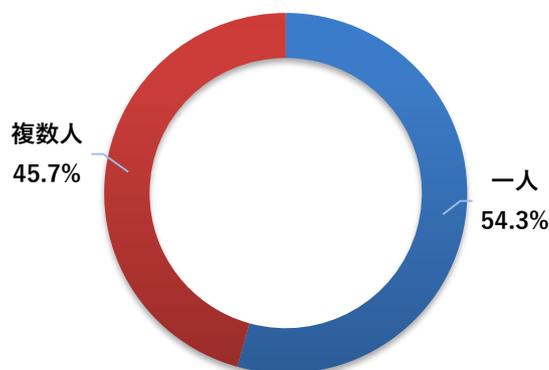
三井ホームは、2020年7月より、ブランドスローガンを「憧れを、かたちに。」に刷新いたしました。近年、人口減少や少子高齢化による社会構造の変化、働き方改革等を背景としたテレワークの増加、環境配慮への意識の高まりなどを受け、住まいへのニーズや価値観も大きく変化しています。当社は、このような時代背景を見据え、よりお客さまの心の中の「憧れ」に向き合い、住まうほどに美しく、街全体の豊かさにもつながっていく住まいの提供に努めてまいります。

<調査結果概要>

■在宅勤務 実施人数

ご家族・同居の方で在宅勤務／テレワークを行った人の数を教えてください。

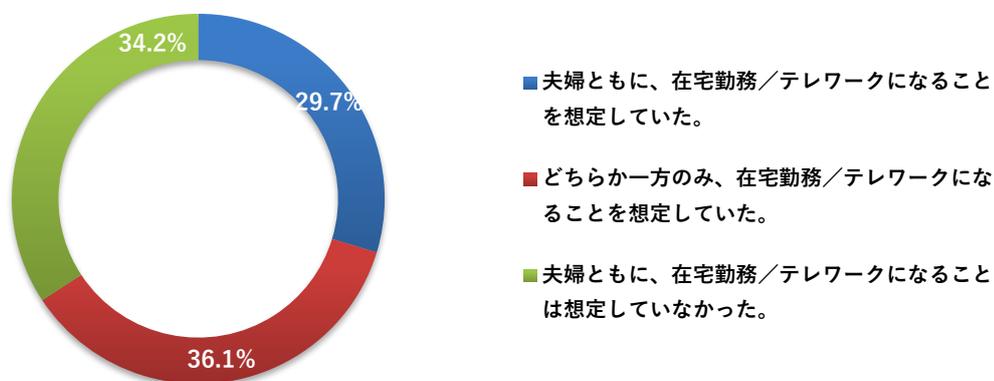
SA , N=374



■在宅勤務 想定の有無

2020年3月～5月以前について、あなた及びご家族の仕事が将来的に在宅勤務／テレワークになることを想定していましたか？

SA , N=374



在宅勤務経験者の約半数が家庭内で「複数人の在宅勤務」を経験。

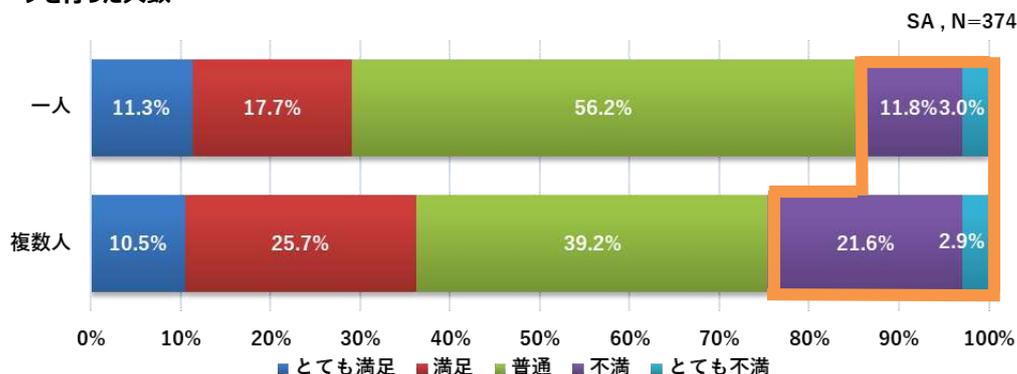
7割の人が、「夫婦共に在宅勤務」になることは想定外という結果に。

家族の中で在宅勤務を行った人数を尋ねると、「複数人」と回答した人が全体の**45.7%**となりました。また在宅勤務になることを想定していたかどうかという質問に対しては、「夫婦ともに、在宅勤務/テレワークになることを想定していた」と回答した人は**29.7%**に留まりました。大半の方にとって「複数人の在宅勤務」は想定外の事態であったことがうかがえます。

■ワークスペースに対する評価

在宅勤務／テレワークを行った経験より、ワークスペースの場所（数）についての評価を教えてください。

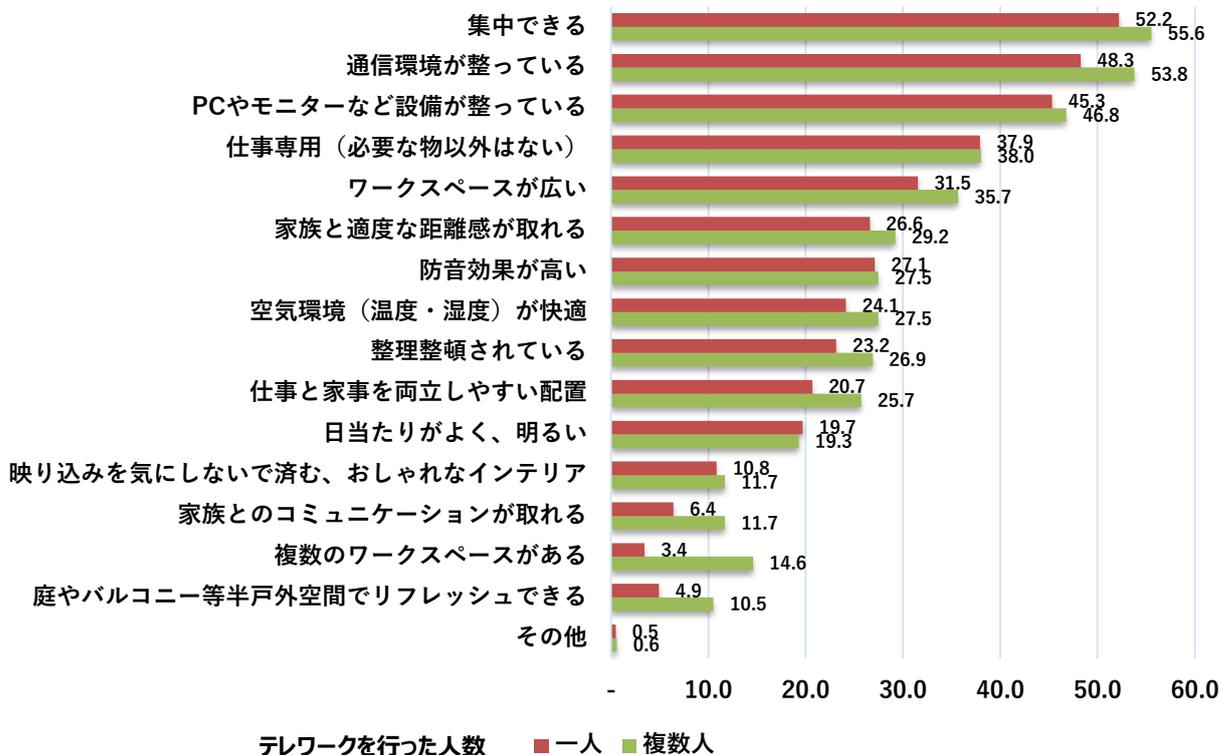
テレワークを行った人数



■憧れのワークスペース

あなたにとって、在宅勤務／テレワークにおける憧れのワークスペースはどのようなものでしょうか。

MA, N=374



家庭内の「複数人の在宅勤務」経験者ほど、家のワークスペースの場所（数）について不満が大きい。コロナ禍を経て望まれる“憧れのワークスペース”は、「集中できる」「仕事と家事を両立しやすい配置」「防音効果が高い」「おしゃれなインテリア」など、ニーズが多様化している。

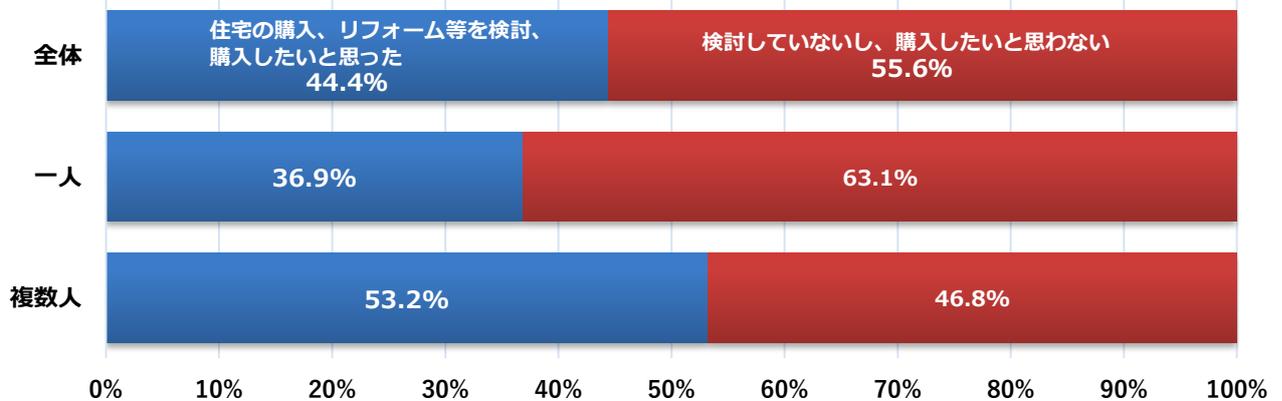
自由回答で不満について聞いてみると、「生活音が気になる」（50代女性）、「2人で在宅になるとスペースがない」（50代女性）という回答も見られました。

■住宅の購入意欲

実際に在宅勤務／テレワークをきっかけに住宅の購入を検討しましたか。

テレワークを行った人数

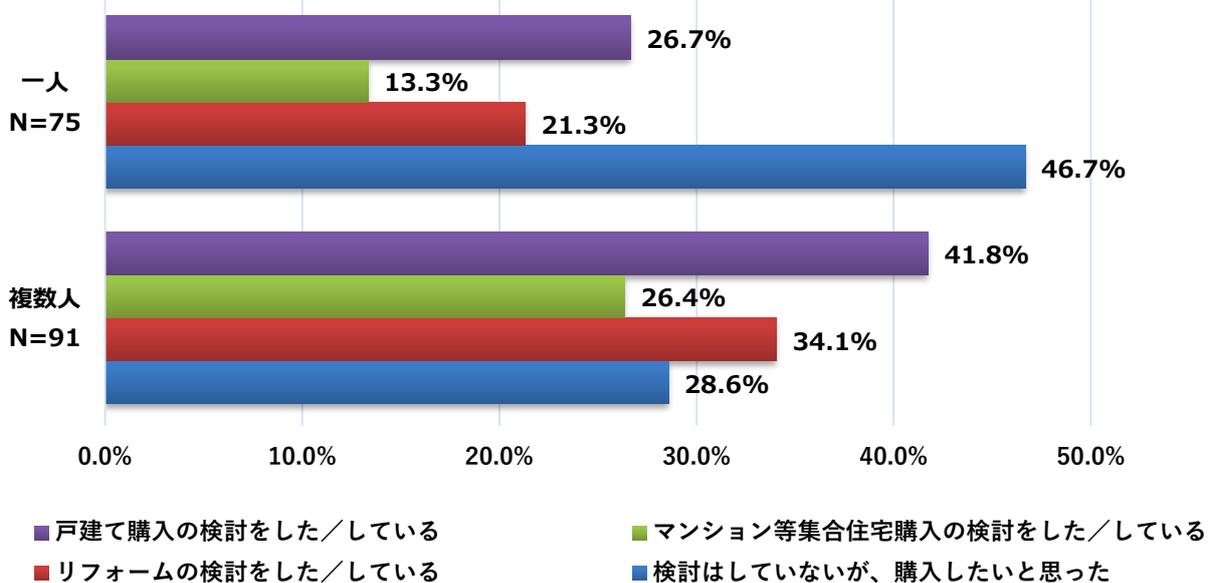
SA, N=374



■住宅の購入意欲内訳

実際に在宅勤務／テレワークをきっかけに検討した住宅の内訳について教えてください。

テレワークを行った人数

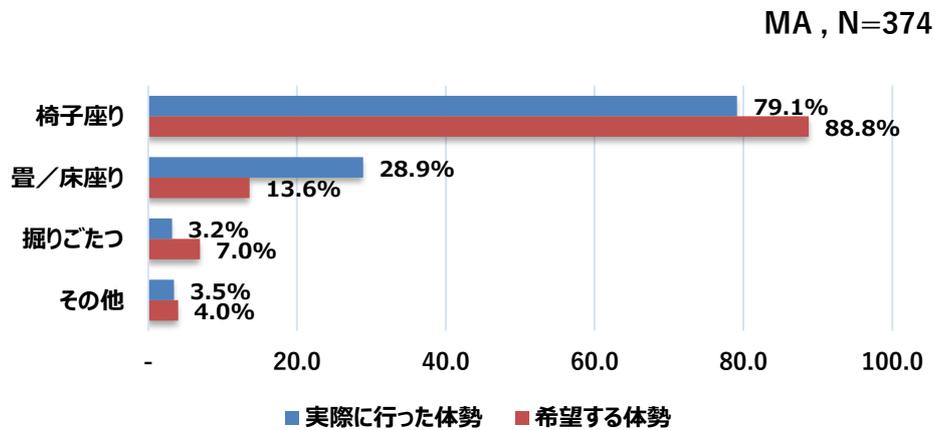


在宅勤務をきっかけに 4 割以上(44.4%)が「住宅・リフォームを検討、もしくは購入したい」と回答。「複数人の在宅勤務」経験者ほどその意向は強く、5 割を超える結果 (53.2%) に。また、「戸建て購入検討」は、複数人在宅勤務経験者の方が、一人在宅勤務経験者と比較して高い数値に。

「複数人の在宅勤務」経験者は戸建て購入の検討をした/している (41.8%) 割合が高く、一人在宅勤務経験者 (26.7%) と比べ、15 ポイント以上の差となりました。コロナ禍における在宅勤務は、多くの人のマイホーム検討のきっかけとなったようです。

■作業姿勢

在宅勤務/テレワーク時の姿勢について、あてはまるものを教えてください。



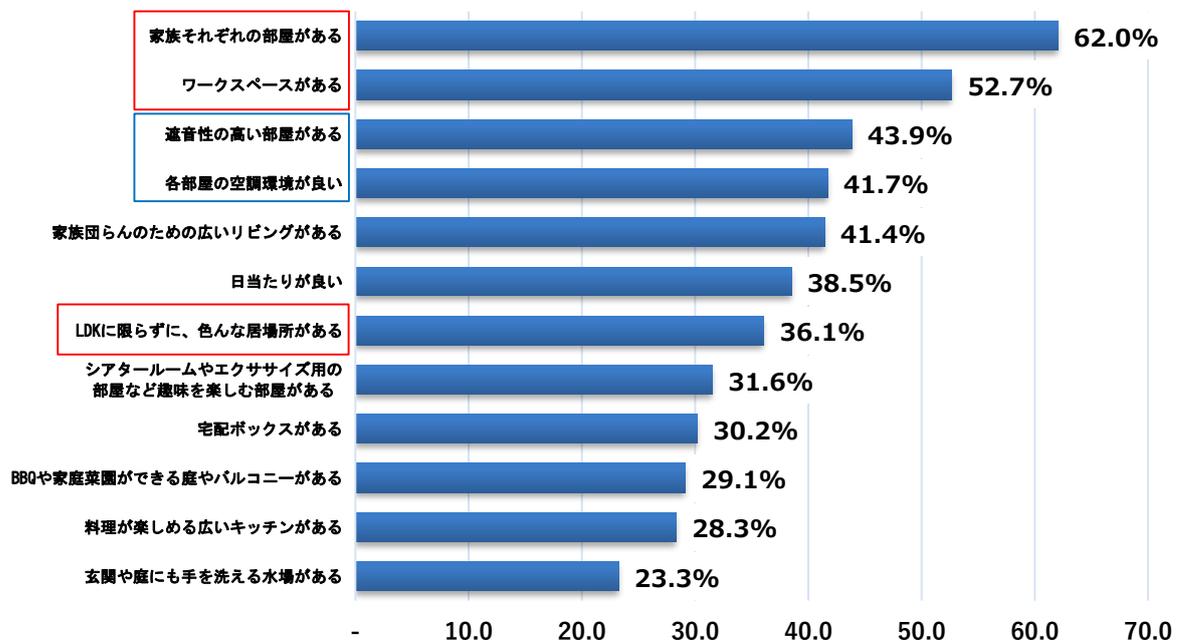
在宅勤務時の姿勢は約 3 割が「畳座り」を経験。理想の姿勢として、9 割近くが「椅子座り」を希望。

在宅勤務時における姿勢について聞くと、「椅子座り」が **79.1%** で最も多い結果となりました。また、「畳/床座り」については、実際に行った体勢としては、**28.9%** という結果ですが、希望する体勢としては **13.6%** に留まり、多くの人が「椅子座り」を希望していることがわかりました。

■憧れの家とは？

コロナ禍を経て、これから自分の憧れの家をつくるとしたら、以前と比べてどの条件を重視しますか。

MA , N=374



今後の憧れの家は、「家族それぞれの部屋がある」「ワークスペースがある」「LDKに限らずに色々な居場所がある」など空間に関わる項目や、「遮音性の高い部屋」「空調環境が良い」など、家の環境に関わる項目が上位に。

<調査概要>

タイトル : 「コロナ禍における“共働き夫婦”の働き方と住まいに関する意識・実態調査」

調査方法 : インターネット調査

調査期間 : 2020年6月12日(金)～16日(火)

調査対象 : 全国の2020年3月～5月の間、週1回以上在宅勤務/テレワークを行った
30～50代の共働きの男女 計374名

※新商品発表のお知らせ

本リリースと合わせ、“共働き家族”に向けた戸建て住宅新商品「chou chou COOL (シュシュクール)」を同日にリリースいたします。本商品では、複数人同時に在宅勤務できる空間構成を提案するなど、本調査を参考にさまざまな暮らしかたの提案をしています。是非合わせてご覧ください。

URL : https://www.mitsuihome.co.jp/company/news/2020/0716_chouchou.pdf



*この資料は、次の各記者クラブにお届けしております。

- 国土交通記者会
- 国土交通省建設専門紙記者会

本件に関するお問い合わせ先
三井ホーム株式会社 広報部 広報グループ
増田・清宮 電話 03-3346-4649